

七月三日 元市議会議員で高森新田の斎藤徳太郎さんが死亡された。気さくで明るで、こまめに動きまわつてよく人の世話をする人だった。若いときから浪曲がうまい、東北七月七日 女教

希望は燃えて随目に肩に
乗る姿は学ぶべきだ、と一様に思
る。先月から連載している
私の中国歌紀行も参考にして
いただきたい。

九月二十一日 今年の新潟県の
日本都市センターに来ている
日本都市センターに来ている
すぐ近くに鶴岡中学校がある
ある。理解と協力をお願いして
ある。理解と協力をお願いして
する。

第243号 豐業庄報

各地の旅まわりをした。歌手三波春夫が南条文子若といつていたころ、いっしょに口演をしたこともあるという。七十四歳だった。ご冥福を祈る。

七月六日 私が中國視察に行つた後で、下町に火災があつた。隣りの五輪バチンコ店は外側を鉄板と網入りガラスにしていたため焼け残った。三重県立第五百尋館へ寄り、備前島令長を参考した佐藤忠三年農協視察団も参加して、員修会の科の「一つとして映写による中映写による中視察講話を

市長の日誌 石井

たので、消防署に命じて広報指導に当らせていました。それが実証されたわけだ。このことを消防監督の訓示の中で話は選れていた貧しきの中に、高校同道で北信越を制は
米田直子さん（白新町）

無視して協力しなかつたら、農業市が不利になり、協力しない人の不利はもちろん、協力です。ところが、入学したら友達ができるまでして、その友達から「弓をやりましょ」と説かれて……それというのも、弓のことは、ちづりがんばら

「朝は七時から授業が始ま
るまで、午後は放課後の三時
半ころから六時半まで、日曜
祭日も、休みないです」
開口一番、米田さんは、練
習、また練習の毎日を語つて
くれました。
「今日は、国体一次予選の
翌日なので、早く帰つてこれ
ました。普通だと八時過ぎで
舞踊を習い始め、中学三年で
統けました。しかし、高
受験があるので、入学した
ままやろうと、一度やめた
ことがあります。」

やるから」といふ。まあ、おまかせでいい。それで、ま
らないものを思つていましまつたから。私つて打算的なのか
しら」
思つていしたこと、実際は
「とても大変でした。入部
して二、三ヶ月は、専ら腕立て
ふせと腹筋運動などの体力
づくりでした。その後は素引
きといつて、矢をつけない練
習、それから正式にという具
合に、本当に大変でした。
また、先輩が厳しく、少しぐ
らいからだが悪くとも休ませ
てもえませんでした。強く
父親の豊さんは

「ぐだりんこ向いて、い
くべきだ」といふ。それで、ま
この学校を県大会で十回優
勝させています。試合があれ
自分の車で送迎してくれた
この前は、祝ひだと言つて
選手みんなに、チョコレ
バフエをおごってくれま
弓からのまで二十八枚
三十枚が、その時の精神的
できまるんです。微妙な
ですね」

A black and white photograph of a man with dark hair, a mustache, and glasses. He is wearing a light-colored, possibly white, button-down shirt. The photo is set against a dark background. Above the image, the date "昭和55年7月20日" (July 20, 1980) is printed in a stylized font.

の全国入会までの活動が期付けるには、そこを乗り越える
などいっていいんですね」
「新発田まで自転車通学とか
「はい、朝早いのが七時からです。できることなら、ず
らですので、バスも汽車もな
いんです。それで仕方なく自
転車で。でも、オバアチヤン
に反対され、今はやめています。
す。そのかわり、お父さんが、
校の三年生。

この子が、ここまできた
ですから、よくやつたと思
います。できることなら、ず
ら伸ばしてやりたいです
八月の四国での全国大
場が決まり、猛練習に明
れる直子さんは、西新発

鳥屋遺跡发掘の時、当時の
村はざれど忠わるるところに
黒い不思議な六が現われてき
ました。五十三年の差掘との
きには十個、翌年には百五十
個もできたのです。大き
いものは三寸、小さいものは
十五六枚、深さも一尺余りか
ら十五六枚の浅いものまで、
同じ穴でも浅いところと深い
ところがあります。形も円い
もの、だ円形のもの、いびつ
のものです。新潟大学に骨
格は小さなもののほか、
最大なもので四十五枚
ありません。数は百片以
り、六十近い穴からで
す。新潟大学に骨

のものとバラバラなのです。その中から今までお話をした、土器、石器、土偶、耳かざり、食料としては大和しじみに炭化した栗、漁具としては土鍬、面がこれ人骨か獸骨だというのです。お墓のはつきりした人骨も、あまりませんので、鳥橋を依頼したが、火を受けていたね。ちょうど正月には、新新発田川橋というんで、よく覚えていたんだ。
「引越にあるすけ、引越橋なんと言ふ人もあつろも、正式には、新新発田川橋といふんでね」
小池市郎さん（六八歳、内島見）は、語ってくれます。

43号
——この橋は、おらかわがる
ところによつと、三回架けら
てゐるね。最初の橋は、木橋
で、幅が四尺ぐらいの荷車が
通ると、橋を渡つてゐる人は
どけないとダメだったね。ま
た、こいつらが、かつてこしら
代めにならんだけと

「そうそう、四
か、
れた、はえやふく
になまず、えび
とい日には二十
われたね。考えら

13 豊栄広報 第2回
あ。それからじいがんばる。
ね。でも、そんなん橋も、材質が良かつたんで、木崎郵便局の前の橋として、使われたんね。まあ、古さがり橋だろつかね。その次の橋は、丸木に杉皮を敷き、さらに砂利をしいた土橋だったね。そして今のが、永久橋で、昭和八年ころにでき上ったなんね。それが、二十一歳の時、九段の近衛兵として、年始参りしたんだけど、せっせと橋造りし